

「神を知ることにおいて成長しますように」

コロサイ 1:10

堀田修一 25・1・26

「また、主にふさわしく歩み、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる良いわざのうちに実を結び、神を知ることにおいて成長しますように」：10。

9節の「あなたがたが」を覚えたい。個人的にバラバラにではなく、「あなたがた（複数形）」教会があらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように」：9。

それに続く10節。つまり、「あなたがた」教会が、

I 「主にふさわしく歩み」。この順番とつながりに注目したい。まず、「神のみこころに関する真の知識に満たされますように」：9。神のみこころを知ることで終わりではなく→主の教会（あなたがたが）が、互いに重荷を負い合い助け合い、「主に（神のみこころに）ふさわしく歩みを」する。真に霊的な知識は、実践となって現れることを自ら経験して来たパウロが、コロサイ教会に対しても、彼らが社会一般に流行する不道徳や生活観を基準として歩むのではなく、「主にふさわしい歩み」すなわち、主イエスの従順と愛と聖潔の生涯を模範とした歩みに導かれるように祈る。聖い生活を伴わない正統主義にならないように。「神のみこころは、あなたがたが（複数形、個人的にだけでなく、あなたがた教会。互いに重荷を負い合い支え合うことにより。ガラテヤ6：2）きよくなることです。あなたがたが不品行を避け（強い人はいない。ゆえに、祈り合い支え合いつつ避ける、近づかない）、各自自分のからだ（聖霊の宮。I コリント6：19）を、きよく、また尊く保ち、神を知らない異邦人のように情欲におぼれず…なぜなら、主はこれらすべてのことについて正しくさばかれるからです」（I テサロニケ4：3～6）。

II 「あらゆる点で（ある部分だけ明け渡すだけで、他の部分は隠しておくのではなく。教会生活、家庭生活、私生活、社会生活のあらゆる領域で。あらゆる所で主は共にいてくださる、すべてを見、知っておられる）主に喜ばれ」。愛のない律法主義的服従ではない。まず主が私たちを愛され、私たち自身の存在を喜ばれる。今年度の目標「キリストの愛（私たちの存在を喜ばれる愛）にとどまる」。その主を愛するゆえに主に喜ばれることを求める主との交わりがある。そのために必要なことは「主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい（原語：検査、試験、吟味する。主のみことばに聞く・自分自身を吟味する、自分の真の動機は何か。真に主に喜ばれることか、分を越えた自分勝手な先走ったことか）」（エペソ5：10）。

III 「あらゆる良いわざ（原語：エルゴン、行為、わざ、活動、働き）のうちに実を結び」。主の贖いの御目的→「キリストが私たち（複数形）のためにご自身をささげられたのは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心なご自分の民を、ご自分のために聖別するためでした」（テト2：14）。「実を結び」の条件＝

- i 「人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまるなら、そういう人は多くの実を結びます」(ヨハネ15:5)。キリストにとどまる=主との交わり、毎朝のディボーション・キリストの体である教会の礼拝につながる・キリストの体である教会の交わりにつながる。
- ii 罪を悔い改めて御霊に満たされ続ける。「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」(ガラ5:22, 23)。
- iii 「神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになります。自分の肉(罪の欲望)のために蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊のために蒔く者は、御霊から永遠のいのち(永遠に神と交わり神を知り続けるいのち)を刈り取るのです」(ガラ6:7, 8)。

IV 「神を知ることに成長しますように」: 10。これこそ、神の民、私たちの主要な目的、目指すこと→「ただ、これを誇れ。悟りを得て、わたしを知っていることを」エレミヤ9:24。「全焼のいけにえより、むしろ神を知ることを喜ぶ」ホセア6:6、「永遠のいのちとは…神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知る(原語:知り続ける)ことです」ヨハネ17:3、エペソ4:13。

1. 神のみことばで神のみこころを知る。: 9→神のみことばを實踐していく「主にふさわしく歩む」: 10→頭だけの知識ではなく実践、歩みを通してますます「神を知ることに成長する」。真理を知りそれを實踐して始めて、真に知り、自分のものとなる。「だれでも神のみこころを行おうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語っているのかがわかります」(ヨハ7:17)。

2. 神を深く知り続けるには＝

- ①個人的な神との交わりを大切にす。みことばと祈りの時(ディボーション)。主の模範→マルコ1:35。
- ②キリストの体である教会の礼拝を大切にす、礼拝の中に生まれ臨在される(「彼らがわたしのために聖所を造るなら、わたしは彼らの中に住む」出エジプト25:8)神に触れ、教会のわざである礼拝のみことばで神を知り続ける。「ついに、私たちがみな(個人的にバラバラにではなく、私たちがみな=教会として)、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身だけにまで達するためです」エペ4:13。
- ③キリストの体である教会の交わりを大切にす、その交わりを通してそこに臨在される神を知り続ける。「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです」マタイ18:20。ふたりでも三人でも、主を中心にして、互いに信頼し、支え合い、心を開き分かち合うようになると、神が一層リアルで、身近な存在であることに気づく。主の約束通り、主が本当に私たちの交わりのその中におられることを体験する。これは素晴らしい恵みの経験である。「彼らは、使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた」使徒2:42。私たちも、主の教えを堅く守る実践を通し、教会の交わりを通し、教会の礼拝、聖餐式を通し、互いに心を合わせ祈ること(マタイ18:19)を通して、神を深く知り続けることができますように!運営委員会の証し。聖歌「なおも御恵みを」
- ④いろいろな思い煩い(私たちの心を狭い所に追い詰める)から一旦、心の目を離し、神のみことばと三位一体の神を深く思い巡らし黙想することは、心に偉大な神を深く知らせ、私たちの

心を謙遜にさせ、私たちの心を広くする。神を深く思い知り続ける事は、神が造られた世界と自分と人々を深く知る人に変える。※例え。聖書に記されているキリスト、主の十字架、復活を深く思い、栄光に満ちた三位一体の神を深く知り続ける人は、主の御姿に成長し続けます。みことばと神を深く思い巡らすことは、私たちの心を愛と正しさと謙遜と広い心にすると同時に心に深い慰めを与える。激しい痛みを経験された主イエスを思う時、私たちの心の痛みは和らげられ、悲しみを深く理解される神を思う時に、あらゆる悲しみに深い慰めが与えられ、慰め主の聖霊により、あらゆる心の傷は癒されていくのです。深い悲しみ、色々な心配がやって来る私たちは、いつも神のもとに行きましょう。神の前に重荷を降ろし委ねましょう。神の深い愛に身を委ねましょう。例え。「あなたがたは私に悪を謀りました。神はそれを、良いことの計らいとしてくださいました」創世記50：20。証し。「死も、いのちも…支配者たちも…深いところにあるものも、そのほかどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません」ローマ8：38, 39。愛の神が私たちを抱きしめて下さっているからです。